

## 京土会女性の会 キャリア支援交流会報告

2019年3月15日

このたび、京土会のご支援、ご協力を賜り、昨年に引き続き京土会女性の会キャリア支援交流会を無事に開催することができましたのでご報告申し上げます。

交流会は秋空晴れ渡る10月20日（土）の午後、京都大学桂キャンパスCクラスタの人融ホールにて開かれました。本年は、登壇をお願いした方々も含め卒業生15名（うち男性4名）、学生12名の総勢27名が参加してくださいました。大学院生や留学生など昨年から比べると多彩な顔ぶれとなりました。

第1部座談会では、まず島田洋子先生（都市環境工学専攻・准教授）から女子学生の研究環境や進路についてお話し頂きました。女子学生も男子と同様にほぼ全ての業種に就職していて、比較的慎重に修士への進学や就職を検討する学生が多い印象であるということでした。

次に、基調講演として、土木系女子学生のパイオニアの一人である薬師寺えり子さん（S58 土木・横浜市温暖化対策統括本部長）から「横浜市における女性土木技術職の活躍」と題するお話を頂きました。横浜市では、林文子市長のもと女性の積極的な採用や区長への登用が進んでおり、それに伴い働きやすい環境整備もずいぶん進んできたという現状が紹介されました。その上で、薬師寺さんからは2つのメッセージを頂きました。

ひとつは、「仕事では良い意味でのいい加減さも大事」ということ。職場では、未経験の職場や希望しない職場への配属を恐れて昇任試験を受けない技術職の声をきくことがあり、真面目な女性ほどそのような傾向にあるという。本来土木の学生は広く色々なことをやるのに向いているので、自分の力を信じてチャレンジしてほしいとのことでした。

もうひとつは、これから社会で活躍するにあたり、周りに感謝する気持ちをもってほしいということでした。まだまだイーブンとは言えない社会の中で、現在の状況を整えるために努力してくれる周りの人々に薬師寺さん自身がずいぶん助けられたそうで、その際の感謝の気持ちは今も抱きながら仕事を続けているというエピソードを添えられました。



交流会に参加いただいた卒業生・学生のみなさん

その後、ラウンドトーク「私の働き方」と題し、各界に進まれた卒業生3組4名（1組は卒業生夫婦）にお話を伺いました。土木の分野では「数は力」との言葉通り、どの業界においても数が少ないことで女性を感じる課題は解決が進んでおり、むしろ子どもを生んでからのほうが時短で効率良く働けていることの紹介があった一方で、そうした意識改革の度合いには企業差が大きいため、女子学生には先輩から話を聞くなどして企業選びを慎重にしてほしいというアドバイスも頂きました。また、卒業生で共働きのご夫婦は、前夜に夫が購入した食材を使って妻が出勤前に調理するなど、連携プレーで子育てに奮闘するリアルな様子をお話し頂きました。

会の締め、全てのお話を聞いて下さった京土会会長の戸田圭一先生からご挨拶頂いた後、第2部茶話会で楽しいひとときを過ごしました。また、告知していた京土会女性の会の愛称については、決戦投票の結果、僅差で「椿の会」と決定いたしました。

開催に際して京土会、教室の各先生より頂いたご支援、ご助言に心よりお礼を申し上げます。また「椿の会」として今後も交流会を継続して開催できる体制の構築も目指します。今後ともどうぞご指導、ご支援、ご協力をいただきたく、お願いを申し上げます。

発起人一同 山田菊子 (H1, H3) / 松田曜子 (H14, H16, H19) / 澤田茉伊 (H18, H20, H28)



第1部の座談会の様子



第2部の茶話会での歓談